



山に触れ、山と関わる方が増えることを願って活動されている地域おこし協力隊の山中望さん。6月15日に担当する大芋地区で、ロゲイニング(地図とコンパスを使って山野に設置されたチェックポイントをまわり点数を競う)を開催され、参加者と山林、地域の人々がつながる機会となりました。今後は12月6日に開催予定の市内に200あるといわれる山城を使った「丹波篠山・山城ロゲイニング」をはじめ、丹波篠山の歴史や文化にも触れながら、さまざまな年代の方が山に親しみをもってもらうことを願っています。



地域おこし協力隊 **山中望さん**

陶芸家として活動していた林益郎さん。窯の火入れに欠かすことのできない松の木が、どのように植えられ育まれてきたのか、そんな探求心がきっかけとなり、現在は自伐型林業家として活動に励まれています。山主さんたちが大切に受け継いできた里山。高齢化に伴い、里山の管理が行き届かなくなっています。師匠の教えを守りながら作業を続け、いずれは、開かれた山でお茶会を開催できればと思っています。きっかけは、人それぞれ自由でいいので、山や林業に携わる方が増え、里山を守ることに繋がればよいなと思っています。



自伐型林業家 **林益郎さん**

持続的な関わり 自伐型林業
 森林内に小さな作業道を張り巡らし、長期にわたって少しずつ搬出間伐をくり返す林業である自伐型林業。その作業道は、極力自然に逆らわず、山を崩さないように設計されていることで、長期間にわたって使用することを前提としているので、子どもでも走り回れるくらいきれいに整備してあります。また、雨水を分散して排水するように作られていて、木を育てながら土砂災害を防ぐ役割も果たしてくれるそうです。森に適度に光が入り、木々が健やかに育ち、生物の多様性も育まれることで、生態系にも積極的な効果が期待されています。
 市では、昨年9月に自伐型林業のモデル林を整備し、同時に実施した研修会には、さまざまな職種の若者が集まりました。少ない人数で、簡単な装備で取り組むことができ、副業も含む幅広い働き方が可能なことで注目されています。

一昔前までは、人は森と多様な関りを持ち、森の中でさまざまなことを学び、育ってきました。しかし近年では、人と森との関りが少なくなり、人が入ることができない山林が増えてきています。
 今回は、自然豊かな丹波篠山を舞台に、山の整備やさまざまな活用を行い、人と森との新たな関係づくりをめざす取り組みについて紹介します。
問い合わせ
 森づくり課 ☎552-1117



人が好き まちが好き
街かど Report
 リポーター

森林を未来へつなぐために
～子どもたちが遊べる森へ～



森林戦略担当官 **金山俊作さん**

山林は世代を超えたバトン

最近、先祖代々守ってきた山を後世に託していきたいと考えている山主さんと、豊かな山を守りながら活用し、まちづくりにつなげたいという若い世代が協力し合うことで、少しずつ山に人が入れるような取り組みが行われています。実際に、子どもたちが野山を駆け回る姿を見ると、どうかして将来世代に良い環境を残していきたいなと感じます。一方で、山を取り巻く状況としては、

産業の変化や人手不足によって手入れができず、土砂崩れや野生動物の農産物被害、クマなどの出没事例など、地域の生活を脅かす原因となってしまっています。しっかりと地域に寄り添い、山林の所有者さんに寄り添いながら、地域の山林をまちづくりに生かすことで、健康な暮らしや素晴らしい環境、ふるさとの風景を次世代につないでいきたいと考えています。

森林整備・活用に向けた取り組み

最近、「所有者が分からない」、「隣接の境界が分からない」「管理ができない」「活用方法が分からない」といった管理が難しくなった山林に関する相談が寄せられています。丹波篠山市では、10年前から推進してきた「丹波篠山市ふるさとの森づくり構想」を昨年度改訂し、さらなる森づくりを推進できるよう、各種補助事業を始めとして支援を行っているところです。

特に近年、関係法令や制度が目まぐるしく変化し、複雑化し、専門性をもって地域に寄り添った対策を実現できるように、丹波篠山市独自で森づくり政策官と森林戦略担当官を配置し、山に関するお困りごとの解決に取り組んでいます。一人一人では解決が難しいことも、地域で一体となった対策を行うことで、解決へと動きだせるかもしれません。山についてお困りの方は、お気軽にご相談ください。



子ども樹木博士

次代に引き継ぐために
 丹波篠山に暮らしていると緑の山々が身近にあり、山の中にまで思いをはせることが少なくなりがちです。しかし、今回の取材で、山林が元気で豊かであることが私たちの今の暮らしと未来の暮らしに欠かせない大切なことだと強く感じました。
 一緒に山に入ってくれた子どもたちが元気になって走り回る様子を目の当たりにし、私たち大人が山林を守ることが次世代を担う子どもたちを強く健やかにしていけるんだと心から感じる事ができました。

森に入る機会を作る取り組み
 市では、「子ども樹木博士」などを通して、丹波篠山の豊かな自然に親しみがから、さまざまな興味関心を得る機会を作っています。また、丹波篠山の山を大人から子どもまで駆け回りながら丹波篠山の歴史や文化に親しむ「丹波篠山・山城ロゲイニング」を地域おこし協力隊の山中望隊員が企画・開催するなど、これまでにないユニークな試みが行われています。



リポーター **小山美樹さん**